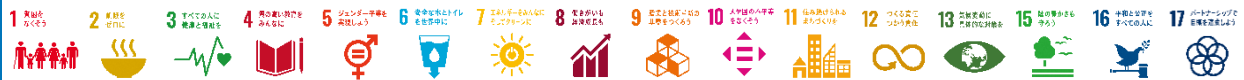


シリーズ 豊前市 **SDGs** Vol.15  私たちと私たちの大切な人が持続可能であるために。豊前で始める、最初の第一歩。

シリーズ豊前市 SDGs とは？ “誰一人取り残さない持続可能な社会”を実現する世界共通目標である SDGs。全部で 17 個ある SDGs の目標を、地域の視点を取り入れ、そして一人一人ができる取組事例を取り入れて、毎月 1 つずつご紹介していく 2022 年 1 月から開始した連載です。地域の未来のために、私たちと私たちの大切な人が持続可能であるために。豊前で始める最初の第一歩。毎月 SDGs を一緒に学びながら、**自分にできることを一緒に始めていきましょう。**

目標 14 「海の豊かさを守ろう」 ~海の生き物を守っていくこと 海と海の資源を持続可能な方法で利用すること~

このままだと...海に魚が住めなくなる。このままだと...海に魚がいなくなる。地球の面積の 7 割を占める海。この豊かな海は、地球のあらゆる命のみなもとです。しかし、その大切な海が今とても深刻な問題を抱えています。1 つは魚の獲り過ぎなどで、魚などの海の資源が減ってしまっていること。現在海にいる魚の量は 1970 年当時の約 49% しかないと言われています。50 年間で魚はおよそ半分に減ってしまっているのです。もう 1 つは、海に流れ込むごみの問題です。海には毎年 800 万トン、東京スカイツリー 222 基分の重さのプラスチックごみが流れ込んでいと言われています。このままいくと「海のプラスチックごみの量は、2050 年までには魚の量を上回る」そんな予想もされています。皆さんは日本の一人当たりのプラスチック包装廃棄量が世界何位か知っていますか？2017 年に発表された「国連環境計 (UNEP) 調査」によると、日本はアメリカに次いで世界で 2 番目にプラスチックを廃棄している国なのです。そのごみの量は 1 年間で一人約 32kg。日本はプラスチックに溢れた国です。私たち日本人がプラスチック製品とどう関わるかは実は非常に重要なテーマなのです。



豊前市の取組 | 「水産資源を守る放流事業」 豊前海、豊かな海を守るための取組み

海に囲まれた日本は海から多くの恵みを受取り海と共に生きてきた島国です。日本は世界の国の中でも魚をたくさん食べる国で、世界の平均と比べると約 2 倍、一人当たり 1 年間で約 45kg の魚を食べています (FAO「世界漁業・養殖白書 2020 年」/令和元年度「水産白書」より)。古くから魚は日本の食事にとってなくてはならない食材でしたが、海の抱える深刻な問題のとおり、魚などの水産資源は減っているのです。これは豊前市にも関わりの深い問題です。豊前海においても、魚種や漁獲時期の変化、漁獲量の減少などの影響が発生しています。豊前市ではこれらの影響を少しでも軽くして豊かな海を守っていくために、在来魚の育成や資源の増殖に向けてクルマエビや豊前本ガニの放流、ヨシエビの畜養放流事業などを行い海の水産物資源の維持に取組んでいます。また、水産物の生体の維持確保のためにも関係団体と相談をしながら漁協組合と連携して、漁場の維持・回復に努められるように、実験検証の事業を継続的に行っています。また、ヤマメやアユの稚魚及び成魚の河川への放流事業行い、河川環境美化・生態系保全対策などにも取組んでいます。

お問合せは 農林水産課 森林水産係 ☎82-8038

SDGs の主人公はわたしたち 身近なところにある SDGs 一人一人ができる取組事例

目標 14 「海の豊かさを守ろう」は「海と海の資源を守り、持続可能な方法で利用する」ことを目指す重要な目標です。今回ご紹介する取組以外にも、個人でできる取組はたくさんあります。まずは新聞や公共施設など周囲に目を向け、身近に自分ができる取組が紹介されていないか、そしてヒントが隠れていないか探し、できることから始めましょう。

<わたしたちにもできること>

- ① マイエコバックを持ち歩き、レジ袋をなるべくもらわないようにすること
- ② マイボトルを使用して、ペットボトルやストローの使用を減らすことを心がけること
- ③ ビーチクリーンや河川の清掃活動に参加すること
- ④ 魚を買う時は MSC 認証マーク(海のエコラベル)のついた商品を選ぶこと

株式会社ニコン日総プライム 水谷洋司(英国 CMI 認定サステナビリティ(CSR)プラクティショナー)

